

平成26年度秋田地域保健医療福祉協議会 議事要旨

日 時：平成27年2月10日（火） 午後1時30分～午後3時
場 所：ルポールみずほ ふようの間
出席委員：14名（※別紙のとおり）

1 会長・副会長選出

委員の互選により、穂積委員が会長に選出された。

当日欠席した穂積委員の意向を踏まえ、副会長には松岡委員、神田委員が就任した。

2 議事

(1) 部会報告

資料1により各専門部会の開催状況・内容について事務局から説明し、質疑を行った。

加藤委員：二次医療圏とは何か。

伊藤部長：医療法に基づき都道府県知事が設定するもので、本県は8医療圏。当秋田周辺医療圏は秋田市、男鹿市、潟上市、南秋田郡で構成され、全県の人口規模の約3分の1を占める大きな医療圏である。

県の医療保健福祉計画及び地域医療連携計画を平成25年3月に策定したが、その中で医療圏毎の基準病床数や5疾病5事業に係る医療連携体制の構築を盛り込んでいる。27年度には新たに地域医療ビジョンを策定する予定。

松岡委員：献血は足りているのか。特定の血液型が足りないということはあるか。

事務局：全般的に不足している。血液製剤は日持ちがしないこともあり安定的な献血の確保が必要。季節的には冬期が特に少ない。特定の血液型がコンスタントに不足しているということはない。

(2) 秋田地域振興局福祉環境部の平成26年度主要事業について

資料2により各課の主要事業について事務局から説明し、質疑を行った。

菅生委員：不法投棄のゴミの量は10年前と比べてどうか。

事務局：不法投棄箇所数はおおむね3分の1程度まで減少している。

加藤委員：自殺の原因はどういったものか。

事務局：警察の調べでは健康上の理由（H25…42.9%）が最も多く、次いで経済的な理由（H25…10.5%）となっている。

加藤委員：県の自殺対策が浸透し経済的な理由は減少したとを感じる。引き続き取組を進めてもらいたい。

松岡委員：自殺者数が多い50～59歳の層で一番多い原因は何か。

事務局：年代別の原因までは把握していない。

斉藤委員：メンタルヘルスサポーターはどのような活動をしているのか。

事務局：地域住民へのあいさつや声かけ、専門の相談機関への橋渡し等を通して、住民に身近な立場で心の健康づくりや自殺対策をサポートしてもらっている。

加藤委員：商工会では経済的な理由による自殺予防のため、年度末などの時機をとらえて職員が事業所への巡回相談などを行っている。

山本委員：北浦地区では私の知る限り原因の大半が病気。余命が分かったからと言って死を急ぐ必要はない。早期にサポーターに関わってもらえる機会があれば予防につながるのではないかと。

伊藤部長：サポーターは17年度に全国に先駆けて始めた制度で、現在では県内全域で活動が展開されている。心の悩みを抱えている人がどこにいるか分からない、というのがきっかけだったが、これまで養成セミナーや研修会などを通じて声かけの方法などを学んでもらい、約350人を養成した。自殺に至る原因は一概には言えないが、さまざまな人の関わりや見守りが重要であり、県では協力医制度なども実施している。

加藤委員：訪問医療に対する支援はあるのか。

松岡委員：国では在宅医療を推進しているが、今のところ身体疾患が中心でメンタル面は少ないと思う。

加藤委員：男鹿では小規模な介護施設が増加しているが、5～10年前に比べて施設に余裕がなく、職員の入れ替わりも多いと感じる。自殺対策について行政はがんばっていると思うが、介護職員の待遇改善など金銭的な部分も含めてもっと隅々まで気を配ってほしい。

伊藤部長：在宅医療については、潟上市の小玉医院と横手市の地域包括支援センターを連携拠点事業所として平成25～26年度にかけて事業実施への助成を行った。また、介護関係では、医療介護総合確保基金を設置し、介護人材の確保を図るため、研修や介護職員の腰痛予防に対する支援なども行うこととしている。

加藤委員：基金を取り崩していくのか。

伊藤部長：12月議会で10.7億円を積み立てたが、26年度は医療、27年度以降は介護を対象に事業を行うこととしている。

3 情報提供

・データを活用した事業の推進について

資料3によりデータを活用した事業の推進について事務局から説明し、質疑を行った。

松岡委員：要支援者向けのサービスが市町村に移行されるが進捗状況はどうなっているか。

事務局：各市町村で次期介護保険事業計画を策定中であり、その中で新たな地域支援事業として位置づけられる予定。

松岡委員：市町村への移行に問題はないか。

事務局：18年度に予防給付が導入される以前は、市町村において介護予防・地域支え合い事業を実施しており、そういった実績も踏まえながら進めていくことになると思う。

神田委員：特別養護老人ホームとショートステイは分類上どれに該当するのか。

事務局：特別養護老人ホームは「老人ホーム」に該当。ショートステイについては確認のうえ後で回答したい。（※ショートステイは「その他」に該当する旨回答）

4 その他

加藤委員：ドクターヘリの利用状況はどうか。

伊藤部長：全県的にみて男鹿地区の利用が多い。

加藤委員：男鹿は他地区よりも医療の質が劣っているのかという思いがある。

伊藤部長：ドクターヘリは他に支障を来す状況がなければ原則要請に応じて出動する。

加藤委員：男鹿の利用が多いということは地元の病院では対応できないということか。

神田委員：隣の潟上は高速道路もあり救急車での搬送が容易だが、男鹿では救急車での搬送に時間を要する地域がある。また、地元の病院で患者の受け入れが可能であっても最終治療ができる病院に直接搬送した方がいいということもある。ドクターヘリの利用が多いから地域医療の質が悪いという話ではなく交通事情など複合的な要因がある。

加藤委員：男鹿市には産婦人科が1つもないため、秋田市内まで行かないといけない。診療科の偏在等について、秋田市との垣根を取り払って広域的な視点で改善できないものか。

伊藤部長：秋田周辺地域の医療をどう考えていくのか、非常に重要なテーマ。医療ビジョンを策定するなかで、望ましいあり方について考えていきたい。

加藤委員：病院が個々にならばのではなく、たとえば男鹿みなど市民病院と藤原記念病院で機能分担するなどできないものか。

山本委員：男鹿市内で分娩を取り扱う病院がないことについて、地域の女性から不安の声がある。公平な地域医療を実現してもらいたい。

伊藤部長：産婦人科には医師が1人いればいいわけではない。産科医数が限られているなかで、出生数の少ない地域に複数配置することは現実的にむずかしい。

加藤委員：助産師がいればいいのか。

伊藤部長：助産所という施設形態もあるが、産科医との緊密な連携が必要となる。

松岡委員：秋田市でも病院以外で分娩できるところがほとんどなくなった。訴訟リスクや経営難など産婦人科を取り巻く状況は厳しく、男鹿の人口規模ではなかなか難しい。

加藤委員：男鹿潟上南秋地域で1箇所くらいあってもいいのではないかと。そういった考え方を医療ビジョンに盛り込むなど、行政でイニシアティブをとって進めてもらいたい。

伊藤部長：医療ビジョンの検討にあたって広く意見を聞くようにしたい。

平成26年度秋田地域保健医療福祉協議会 出席者名簿

五十音順

氏名	役職	
石井幸三	男鹿・潟上・南秋圏域老人福祉施設連絡協議会長	出席
石川光男	潟上市長	
石田達郎	秋田市歯科医師会長	出席
伊藤千鶴	秋田市保健所長	出席
加藤義光	男鹿市商工会会長	出席
神田仁	男鹿潟上南秋医師会長	出席
北嶋満雄	秋田県生活衛生関係営業秋田地方連絡協議会長	
小玉喜久子	秋田周辺地区結核予防婦人会連合会長	出席
小西一峰	男鹿市南秋田郡歯科医師会会長	出席
齋藤カツ子	秋田周辺地域食生活改善推進協議会長	
斉藤ヨシ子	秋田県看護協会秋田臨海地区支部 第一地区副支部長	出席
佐藤朋子	秋田県栄養士会理事	出席
杉山和	秋田県病院協会理事	
菅生一也	潟上市社会福祉協議会事務局長	出席
坪井純	男鹿潟上南秋医師会理事	
能登泰之	秋田県薬剤師会秋田中央支部支部長	出席
長谷山則夫	公募委員	出席
廣嶋徹	秋田県教育庁中央教育事務所長	
穂積志	秋田市長	
松岡一志	秋田市医師会長	出席
山本次夫	秋田中央食品衛生協会会長	出席
渡邊彦兵衛	南秋田郡町村行政連絡協議会長（五城目町長）	
渡部幸男	男鹿市長	